

48. 20200705 照葉樹林について

照葉樹林とは、冬でも落葉しない広葉樹で、葉の表面のクチクラ層(角質の層)が発達した、光沢の強い深緑色の葉を持つ樹木に覆われた森林を指す。夏には雨が多い温暖帯から亜熱帯に分布する。

樹木は大きく針葉樹と広葉樹に分けられ、広葉樹は、さらに落葉広葉樹(秋に葉を落とす)と常緑広葉樹(冬も緑の葉をつけている)に分けられる。照葉樹は温帯に成立する常緑広葉樹の一つの型を指している。

地中海沿岸など、夏に乾燥する温暖帯には、小型で硬い葉を持つ硬葉樹林がみられるが、この硬葉樹林がない日本では、照葉樹と常緑広葉樹はほぼ同義であり、シイ類、カン類、タブノキを主体とした照葉樹林が西日本を中心にみられる。

照葉樹林は、その昔、日本を広く覆い、人々の生活と深くつながっていた。しかし開発や燃料の伐採だとか、スギ・ヒノキ植林のため、照葉樹の原生林壊滅状態で、現在では照葉樹林の原生林はその大部分が失われてしまい、まとまった面積の照葉樹林はほとんどなくなった。

現在では社寺林として残っているものが大半である。

主な照葉樹 葉の形、葉の付き方、葉の縁による分類

1. 不分裂葉・互生・全縁

ウバメガシ、シャリンバイ、ソヨゴ、モチノキ、スダジイ、モッコク、トベラ、クスノキ、シキミ、カクレミノ
サカキ、ツクバネガシ、オガタマノキ、カゴノキ、ヤマモモ、シロダモ、タブノキ、マテバシイ、ユズリハ

2. 不分裂葉・互生・鋸歯縁

ハイノキ、ヤブコウジ、サザンカ、シャシャンボ、イスノキ、クロガネモチ、ホルトノキ、カナメモチ、シラカシ、ヤブツバキ、ナナミノキ、イチイ、サネカズラ、ビワ、タラヨウ、マンリョウ

3. 不分裂・対生・全縁

ツゲ、テイカカズラ、ヒイラギ、ナギ、カギカズラ、ヤブニッケイ、クチナシ、サンゴジュ、キジョラン

4. 不分裂・対生・鋸歯縁

ツルマサキ、ヒイラギ、マサキ、ハクサンボク、アオキ

5. 分裂葉

スイカズラ、キツタ、フユイチゴ、カクレミノ、ヤツデ

6. 複葉

3出複葉 葉柄から小葉が3枚

掌状複葉 葉柄から5枚以上の小葉が放射状に出る

羽状複葉 葉軸の左右に小葉が羽状に4つ以上並ぶ

奇数羽状複葉 ハリエンジュ、センダン、ゴンズイ、ニワウルシ、ニワトコ

偶数羽状複葉 サイカチ、ジャケツイバラ